



Via Latina 22

2022年7月 313号

総本部よりのお知らせ－マリア会

トーゴ地区、マリア会での初誓願	1
新しいラテンアメリカ地区の開始式典	2
アメリカ合衆国のマリアニスト大学連合のシンポジウム	3
Vicente師の遺骨の移転.....	4
マリア会の全般的歴史	5
生涯の証し : Paul Landolphi師	6

トーゴ地区、マリア会での初誓願



Patrice Agao士と地区長 Jonas Kpatcha師
Agao士の家族とともに

2022年6月22日、日曜日、トーゴ、カラでPatrice Medesso Agaoの初誓願のミサが行われました。誓願式の祝いはトーゴ・マリアニスト地区長、Jonas Kpatcha師によって執り行われました。誓願式はカラのシャミナード中学校の聖堂で行われました。マリアニスト家族、誓願者の親族と友人たち、そしてカラのシャミナード中学校およびアデル中学校の教育共同体のメンバーたちが誓願式に参列

しました。地区長はその説教の中で、誓願者に対し自分が宣立すると決めた誓いの中に常にしっかりと立つように求めました。そうするために、彼はおとめマリアの特有な徳を基本的に身に着けなければなりません。そのとき、彼は幸せで実りの多い修道生活を確実にすることが出来るのです。式典の後、祭儀に参列した全ての人に軽食が供されました。

新しいラテンアメリカ地区の開始式典



5月31日、マリアの訪問の祝日に、ラテンアメリカの新たな地区の開始式典がペルーのリマで行われました。

VL22 の過去の発行誌（301号と306号）で報告されたように、前のアルゼンチン、チリ、ペルーとコロンビア・エクアドルの地区が単一地区になり、その初代地区長にLuis Casala師が任命されました。

この地区は前の地区に相当する4つの特別地区で構成されています。新たな特別地区の責任者たちは地区長評議員会のメンバーとなります。指導者・相談役は次のメンバーです。

アルゼンチン：	Javier de Aguirre師
チリ：	Mauricio Silva士
ペルー：	Eduardo Arens師
コロンビア・エクアドル：	Pedro Castañeda士



ラテンアメリカ地区の新しい地区長評議員
総長André-Joseph Fétis師と霊生局長Pablo Rambaudとともに

5月31日の午後、リマの聖マリア黙想の家で、新地区が素晴らしい式典の中、マリア会総長、André-Joseph Fétis師の司式で開始されました。

Pablo Rambaud師、そして自分たちの役目を終える地区長たちが式典に参列しました。他の CLAMAR（キューバ、メキシコそしてブラジル）の各代表者たちも出席しました。それに加え、ペルー特別地区のマリア会修道者全員、MLCとAMの代表者たち、そしてペルーのマリアニスト事業で働いている多くの信徒たちがこの式典に参加しました。



新しいラテンアメリカ地区の開始式典に参加した
マリア会会員の皆さん

André Fétis師の説教が終わると、Luis Casala師と新たな特別地区の指導者たちが彼らの関係する任務への奉仕に決意を表明しました。彼らは聖霊の力とマリアの導き、そして修道者と信徒たちの協力を要請しました。私たちはこの新たな地区とその宣教活動の歩みを主のみ手に委ねます。

アメリカ合衆国のマリアニスト大学連合のシンポジウム

2022年6月14日から17日にかけて、教育局長、E. Maximin Magnan士は合衆国のマリアニスト大学連合によって計画されたシンポジウムに参加しました。このシンポジウムはアメリア、セントルイスで開催されました。3年ごとに行われるこの会議は、そのメンバーの継続した養成の一環であり、次の3つの大学の教授、職員、そして理事の中から選ばれた代表者100名あまりが参加しました：ホノルのシャミナード大学、オハイオのデイトン大学、そしてテキサス、サンアントニオの聖マリア大学です。

アメリカの4つの管区が統合された後に創設されたこのアメリカのマリアニスト大学連合（AMU）は、3つの大学間の協調、および経験と情報の交換のための相応しい環境作りによって、より高度なマリアニスト教育を支え、促進し、前進させる使命を有しています。またこの連合は、高度なマリアニスト教育を国内と国際レベルで代表し、教会と世界への奉仕のためにカトリックとマリアニストの教育的な伝統において指導者の養成に貢献します。



あらゆる種類の危機によって現在混乱した世界に直面している2022年6月の会議は、参加者が大学としての特別な役割を取り戻し、またマリアニストの伝統を教育に反映させる方法で現代の課題にどう応えるかを考える機会を提供しました。アメリカの3つの大学は全体で現在17,157名の学生を有しており、1,126名のメンバーが管理運営と教師として働いており、その中で40名程度のマリア会修道者が含まれています。

Vicente師の遺骨の移転

Vicente Lopez de Uralde師の列福列聖に関する調査は2017年スペイン、カディス教区で開始され、そして2022年3月1日、彼のPositio(列福運動準備資料)は列聖省の神学者会議にて審議され、賛成票を得ました。その結果、彼の遺骨は6月25日土曜日、カディスの埋葬地から聖Felipe Neri マリアニスト中学校の聖堂に移転されました。



列聖請願総代理Antonio Gascón師
カディスとヘレスからのマリア会会員とともに
(Vicente師の遺骨は聖堂の奥の壁(写真右側)にある)

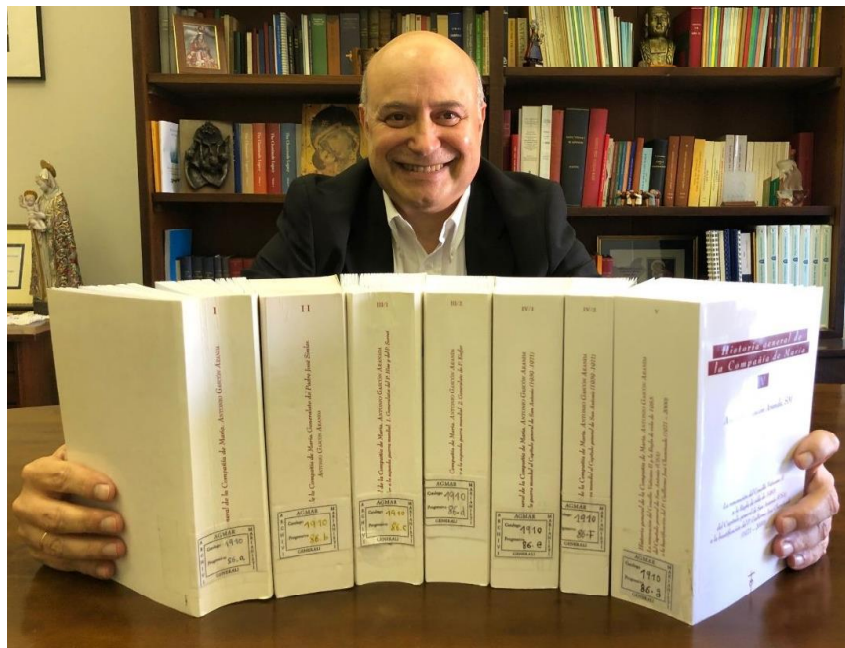
この移転の式典は、教区公証人とマリアニスト列聖請願総代理、Antonio Gascón師と共同体の上長、José Antonio Barbuto師、そして多くの信徒、卒業生、マリアニスト修道者、中学校の教師と友

人たちの出席の下、教区のPedro Belo法務代理によって執り行われました。スペイン管区を代表して霊生部長、Francisco Sales師と財務部長、Lander Gaztelumendi士が出席しました。Vicente師の遺骨はこれ以降美しい聖堂で安息し、そこで信徒たちの敬愛を受けることができます。私たちは来年にVicente師が“尊者”の称号を授かることを期待します。

マリア会の全般的歴史

Antonio Gascón師の著作、マリア会の全般的歴史の第5巻で最後の1巻が丁度発行されました。1991年のマリア会第30回総会は、“マリアニストカリスマの理解（認識）を促進すること”を目的として、マリアニスト管区それぞれの歴史、ひいてはマリア会の全般的歴史の編集を指示しました。

Gascón師が総本部からマリア会の歴史を編纂する任務を受けました。それは、1761年に生まれ、2000年に聖John Paul IIから列福されるまでの、創立者、福者G-Joseph Chaminadeの生涯をカバーするはずのものでした。この仕事はローマのマリア会の文書記録室での調査研究に20年間を必要としました。このマリア会の歴史全体は全5巻で発行されました。これら5巻は20年以上に亘って発行されてきました：2007年に第1巻；2010年に第2巻；2013年に第3巻パート1とパート2；2018年に第4巻パート1；2019年に第4巻パート2；2022年に第5巻。これら5巻全体で6000ページ以上となっています。



Fr. Antonio Gascón マリア会の全般的歴史の七巻

この最後の巻は1971年のサンアントニオ（USA）総会から2000年の創立者列福までの公会議後の複雑で難しい時期をカバーしています。サンアントニオの総会で、マリア会は修道生活を刷新するようにとの第二バチカン公会議の要請を受けました。1983年の新たな生活の規則の認可はこの刷新の道のりの集大成でした。しかしながら、刷新は共同生活、初期養成、学校教育の伝統を越えた使徒職分野への宣教の開始、諸事業の統治と運営、権限委譲に基づくそれぞれの管区とマリア会（集権的統制の

終焉)について新しい形式に具体化される必要がありました。こうして19世紀に均一性と規則性をベースとして作られた修道生活の概念は終わりました。それに代わって修道生活の新しい活力ある制度様式が作られました。しかしながら制度と修道生活でのこの広大で深い変化は修道会に数々の内部問題をもたらすことになりました。しかし、マリア会は公会議後の期間に、アフリカやアジアの若い教会における施設の新設、マリアニスト家族の立ち上げ、そして宣教活動の社会的影響のような新たな地平線に門戸を開きました。

興味をもつ読者は、ついに、マリア会が19世紀、20世紀そして21世紀の期間、その宣教活動を行ってきた、又行っている国の時期と地理を通してマリアニスト修道者の生活、宣教活動、霊性、特徴、そして事業をこの5巻の中に見出すことでしょう。つまり、その中に自分たちが活動する国や社会の社会的、政治的、宗教的、文化的な環境にマリアニストが適応したり行動したりする生活と福音宣教のやり方を見出すことでしょう。

生涯の証し - Paul Landolphi師

Paul Landolphi師が福者William Joseph Chaminadeについて理解したことを書いていた時、次の言葉を用いた時点で、その言葉は同様に彼自身の生涯に容易に適応されうるものでした：「神は常に私たちの生活に現存しておられ、私たちを愛し、私たちを導き、そして私たちにご自身を現される、ということは根本的な信仰の真実です。通常、私たちが過去を振り返るとき、私たちは神が常に私たちと共におられた事に気づきます」。



Paulの場合、神の摂理的な配慮はマリア会と密に繋がっていました。彼が2017年に90歳で帰天したとき、愛すべき教師、学校付き司祭、そして霊的指導者であった彼は、73年間の修道生活を過ごしていました。しかし、彼はマリアニストが運営する孤児院で育てられたので、実際には、マリアニストと共に85年近く過ごしました。彼はたった5歳の時に母親を亡くし、そして彼の父親はその数年後に死去しました。それでも彼は、マリア会修道者たちの配慮の中に、少年期に自分を支え養ってくれた家庭の精神を見出しました。

マリアニストの生活に強く魅かれた彼は、14歳という若さで志願院に入り、続いて1944年に初誓願を宣立しました。それからPaul師は、教師になるために勉強を続け、1952年神学校に入る前に数か所の高校で出来るかぎりの奉仕を行いました。1955年スイス、フリブールで叙階されて、彼はアメリカに戻り、1教師として、学校付き司祭として、そして霊的指導者として自分の職務を続けました。

教室での最初の数年間に、彼の教師仲間や修道者たちは彼の立ち居振る舞いと霊性について何か特

別なものを感じていました。Paul師は決して言葉を荒らげたり意地の悪い振る舞いをしなかったと言われていました。彼は、毎日の生活の中でキリストの山上の垂訓を実践していた人のように皆から畏敬され、そしてオープンで、柔和で、また非常に親切な人として知られていました。

Paul師は、様々な職務で奉仕を継続しましたが、この奉仕には養成の仕事や、彼が幼少期を過ごしたニューヨークのSt. John's Homeでのチャプレンとしての仕事が含まれていました。これまで教育者であり、常に学び続ける人であったPaul師は、ついに2つの修士号を取得しました、一つは管理運営、もう一つは司牧カウンセリングの修士号です。

1970年代半ばまでに、彼は新たな任務の段階に入る準備を終えていました。それはペンシルベニアの「マリアニスト霊的センター」を指導する20年にわたる任期の開始でした。この役割において、彼は黙想、霊的指導、そして宗教教育のプログラムを考案し提供しました - そしてマリアニストの奉獻を深めようと努力していた多くの信徒マリアニストと出会いました。最も献身したマリアの息子として名高い彼は、同時に彼が出会った全ての人に、真の、飾らない喜びを示す柔和な指導者としての奉仕の故に広く知られ、そして愛されるようになりました。

マリアニスト霊性へのその洞察の故に深く尊敬されていたPaul師は、マリアニストの堅忍の誓願の持つユニークな性格について、福者シャミナードとの“夢のインタビュー”から得た感想を一度分かち合いました。彼が考える“シャミナードの声”を用いながら、彼は書きました：“私（シャミナード）は、「堅忍の誓願」が次のことを意味するのを望みました：すなわち、会員は一つの場所にいることより、もっと一つの身分に入り、そこに留まるということです。私は会員が一つの修道院に留まり続けるのではなく、一つの身分、すなわち、マリアに捧げられた身分に留まり続けるのを望みました。それこそマリアが望まれたことです。彼女はご自分を助けてくれる献身した人々を欲していました。マリアはイエスの霊に心を開き、従順である彼女の息子たちと娘たちを望んでいました。これは一つの場所に永続して留まることよりも多くのことを要求するのです”。

1940年代に、同僚たちによって最初に注目された日常の聖性は、その死までPaul師の中で継続しました。彼の晩年に、ニューヨーク、ミネオラにあるシャミナード高校共同体の住人だったPaul師は、自分の周りの人たちに一種の人間ステンドグラス — キリストの光がそのあらゆる輝きにおいてその人を通して絶え間なく誰か—と思われていました。シャミナード共同体において親切で思いやりのある聴罪司祭として広く知られていたPaul師は、また活気あふれる態度を示し、彼の周りにいる人たちを、常に行動、思索、そして祈りへと導いていました。最後に、彼は、共同体のメンバーと共に聖ベルナルドの“聖母にすべてをまかせる祈り”（メモラーレ）の言葉を唱えながら、常にマリアへの奉仕に生きたように亡くなりました。

殉教者、聖Devasahayamへの祈り

(インド人最初の信徒殉教者、2022年5月15日 ローマで列聖された)



聖デヴァサハヤム、キリストへの愛のため、あなたは自ら進んで我慢強く苦痛と拷問を受け、喜んであなたの命を捧げ、神からの大きな報いとして永遠の命の喜びと祭壇での崇敬を受けました。私たちはこの輝かしい人生をもってあなたを祝福するために神を賛美し感謝します。

あなたは、富、地位、家名、名声、そして栄光という、現世的な全ての楽しみから離れて、神の国についての教えのためにあなたの人生全体を捧げました。キリストの真の弟子として、あなたは福音の価値、すなわち地上のあらゆる人々の平等性と兄弟愛を忠実に実践しました。

現世的なあらゆる楽しみから離れてあなたに続けるよう私たちに助けてください、また私たちがいつの日か永遠に神と共に、またあなたと一緒にいる永遠のいのちに入ることが出来るよう、神の国の子供として生き、福音の価値を忠実に実践できるよう私たちに助けてください。アーメン！

最近の総本部通信

- 訃報：19-20号
- 6月22日：総長の第3号回章—兄弟たち！—私があなた方にしたように、あなた方もおこないなさい。(ヨハネ13・15b)、総長André-Joseph Fétis師からマリア会修道者全員に3か国語で送付

総本部日程

- 7月2日~9日：ローマで発展途上の行政単位上長会議
- 7月10日~23日：ローマで総指導者会議

メールアドレスの変更

- Pedro José Castañeda士 (AL) : pejocas@yahoo.es